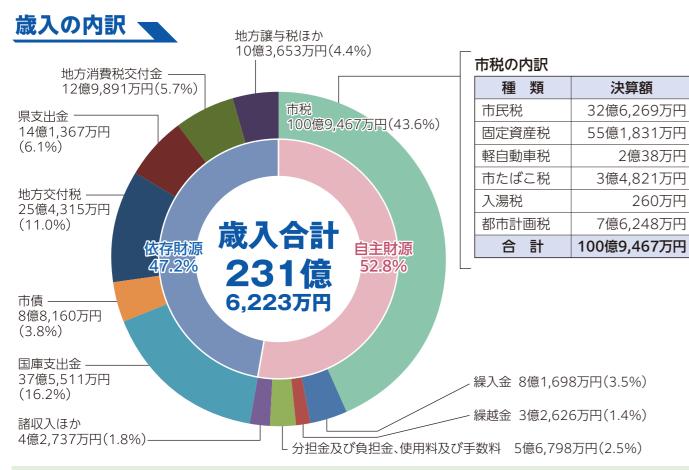
令和6年度

令和6年度の一般会計、特別会計、企業会計の決算が、市議会で認定さ れました。

令和6年度は、第2次総合計画後期基本計画の3年目として、エネル ギー価格や物価の高騰、急激な人件費の上昇等を踏まえ、歳出において一 般財源の一定割合の削減目標を掲げ、経費の縮減を図りつつ、真に必要な 事業に予算配分を行い、取り組みを進めました。

「令和6年度つうしんぼ」では、皆さんに納めていただいた税金や国・県 支出がいくらで、どのように使われたのか、また、市の財政状況はどう なっているのか、詳しくお伝えします。



歳入は、前年度より約8億2千万円増加し、231億6,223万円となりました。

地方財政の自主性を確保する自主財源は、分担金及び負担金などの収入が約1.8億円の増収となりましたが、市税収入 が約2.5億円の減収、諸収入が約5千万円減収、前年度繰越金が約1億1千万円の減収となったことなどにより、前年度よ り約4億1千万円減少し、構成比は歳入全体の52.8パーセントとなりました。

依存財源については、株式等譲渡所得割交付金が約5千万円の増収、地方特例交付金が約2億3千万円の増収、国庫支 出金が約3億4千万円の増収となったほか、市債が約4億9千万円の増収となったことなどで、前年度より約12億2千 万円増加し、構成比は歳入全体の47.2パーセントとなりました。

●歳入額を市民1人当たりに換算すると 47万2,362円

市税などの収入 31万6,942円



国からの収入 7万6,580円



県からの収入 2万8,830円



市債(借入金) その他の収入 1万7,979円 3万2,031円

- · 繰越金 諸収入 財産収入

· 繰入金

寄附金

※市民1人当たりの歳入および歳出額は、令和7年4月1日現在の人口(49.035人)で計算しています。

一般会計の歳入は231億6,223万円、歳出 は226億6,264万円、歳入歳出差引額は4億 9.959万円となり、翌年度に繰り越す財源を 控除した実質収支額は4億7.856万円となり ました。

歳入決算額 231億6,223万円

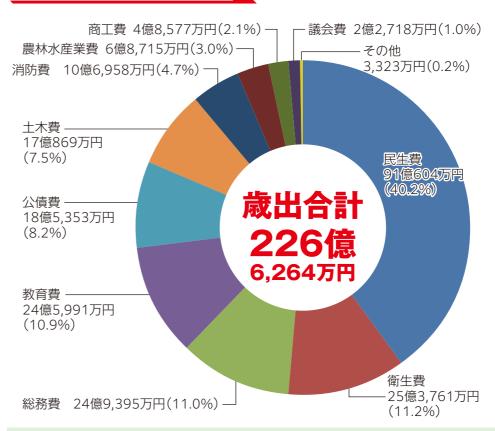
(対前年度比 約8億1.527万円の増)

歳出決算額 226億6,264万円

(対前年度比 約9億6,194万円の増)

実質収支額 4億7,856万円

歳出の内訳(目的別)



用語の解説

○民生費…各種福祉事業に使った費用 ○教育費…学校教育や社会教育など に使った費用

O土木費…道路やまちづくりなどに 使った費用

○総務費…地域振興や一般事務などに 使った費用

○衛生費…市民の健康管理やごみ処 理に使った費用

○公債費…借入金返済や利子支払い に使った費用

○消防費…消防施設や消防団運営に 使った費用

○農林水産業費…農業や林業の振興 に使った費用

○商工費…観光や商工業の振興に使っ た費用

○議会費…市議会の運営に使った費用

○その他…勤労者の支援、災害復旧な どに使った費用

土木費

3万4,846円

歳出は、前年度より約9億6千万円増加し、226億6,264万円となりました。

目的別でみると、民生費は民間保育所等整備事業や児童手当給付事業の増などにより約9億2千万円の増の約91億1 千万円、総務費は庁舎建設基金積立事業、住民情報系システム事業のほか一般職員人件費の増などにより約1億6千万円 増の約24億9千万円となりました。

一方で、衛生費は、溶融処理施設管理費の減などにより約1億7千万円減の約25億4千万円、土木費は公園施設長寿命 化事業の減などにより約1億9千万円減の約17億1千万円となりました。

■歳出額を市民1人当たりに換算すると 46万2,174円

民生費 18万5,705円



消防費 農林水産業費 2万1,813円 1万4,014円



衛生費

5万1,751円

総務費 5万861円



商工費 9,907円



教育費 5万166円



議会費 4,633円



3万7,800円

公債費



· 労働費

災害復旧費